

No. 32

2004年10月発行

淀川水系 流域委員会 委員会ニュース

<http://www.yodoriver.org>

CONTENTS

- 第32回委員会の内容……………P. 1
- 第32回委員会の説明資料より抜粋……………P. 3
- 配付資料リスト……………P. 10
- 委員会 委員リスト……………P. 11
- これまで開催された会議等について……………P. 13
- 配付資料及び意見書の閲覧・入手方法・ご意見受付……………P. 14

平成16年8月24日(火)、第32回委員会が行われました。



【「カラスマプラザ21」にて】

第32回委員会の内容

前々回委員会以降の状況報告が行われた後、資料2-1「事業中のダムの検討事項」を用いて説明が行われ、その後、各ダムについて意見交換が行われました。

第32回委員会結果報告

庶務作成

開催日時：2004年8月24日（火） 10：00～13：35

場 所：カラスマプラザ21 8階大・中ホール

参加者数：委員32名、河川管理者23名、一般傍聴者195名

1 審議の概要

①状況報告

庶務から資料1「前々回委員会（2004.6.22）以降の状況報告」を用いて報告が行われた。

②ダムWGにおける検討経過

今本ダムWGリーダーより、ダムWGの開催状況について報告が行われた後、資料2-1「事業中のダムの検討事項」を用いて説明が行われた。その後、各ダムについて、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・ダムの目的として「環境」が新たに付け加えられたが、ダムWGでは、このメリット・デメリットを比較検討して、資料2-1の主な論点を詳細化していけば良いと思う。
- ・まずは、水位操作でどこまで対応できるかを徹底的に検討するべきだろう。現在のところ、十分には検討できていない。限界まで水位操作で対応して、それでも発生する浸水被害は我慢するのか、あるいはダムで対応するのか、といった議論をしていくべきだ。
- ・丹生ダムの目的として、「環境」が付け加えられたということは、今後、費用便益分析とともに環境便益分析を実施していくことになる。しかし、ダムが環境に与える影響の評価は非常に難しい。環境便益分析の評価に耐えうる十分な検討が必要だ。
- ・丹生ダムの「流水の正常な機能の維持」や「琵琶湖の水位低下抑制」については、主に水量の検討が進められており、水質はほとんど検討されていない。水質についても議論をしていくべきだ。
- ・精査確認中の「利水」の結果しだいで、ダムの議論は大きく変わる。精査確認の見通しについて教えてほしい。
←現在は、新規ダムに参画する利水者が水需要の精査をしている状況。河川管理者としても、流域の水利用や渇水時の調整等を検討していかなければならないと思っている（河川管理者）。
- ・ダムWGでは、琵琶湖水位に関する議論は避けた方がよいのではないか。水位操作が琵琶湖の環境に与える影響はほとんどわかっておらず、これから調査していくべき課題なので、現時点で、ダムWGで審議するのは効率的ではない。
- ・ダムWGで資料2-1を詳細化していけばよいという意見があったが、その作業は各委員がしていかなければならない。特に第4回ダムWGの資料を検討して、審議すべき論点を提出してほしい。
- ・ダム建設の妥当性について審議する際には、治水をメインに議論していくべきだ。環境については評価が非常に難しく、利水は今後、水需要コントロールが主体となるだろう。治水をメインに据えて、代替案や環境への問題点を議論していく方がよい。
- ・これまではハイウォーターレベル以下で流れる流量だけを問題にしてきた。しかし、やはり、ハイウォーターレベル以上で流れる流量についても検討するべきだ。
←堤防がどのような状況になったとき破堤するかについては、「ハイウォーターレベルで

破堤する場合どうなるか」「堤防天端まで破堤しなかった場合どうなるか」「堤防天端を越水したとして破堤しない場合どうなるか」という3つのパターンにおける検討結果を一部のダムでは示している。他のダムでもこれらのケースにおける検討結果を示してきた（河川管理者）。

- ・破堤による壊滅的な被害を回避するためには、堤防補強は避けて通れない。これまでの河川管理者の説明は、在来の工法の延長にある説明だったが、新たな工法（ハイブリット堤防）を真剣に議論していくべきだ。
- ・高時川は天井川であり、危険な状態にある。住民の避難経路確保や土地利用の改善も重要だが、それだけでは、高時川周辺の住民は常に不安にさらされたままだ。あらゆる対策の比較検討を行って、浸水しやすい状況がある程度は解消すべきだと考えている。
- ・ダムWGでは、ダムによって生ずる様々な影響（河川分断、堆砂問題、環境問題等）を併せて審議するべきだ。治水だけを優先して議論すべきではない。
- ・少雨化傾向や降雨パターンの変動によって利水安全度が低下しているとの報告もある。長期的に見れば、利水安全度を上げる必要性もあるのではないかと。これも論点のひとつになるのではないかと。
- ・ダムWGには、本日の意見を参考にして審議を進めて頂きたい。論点として追加すべきものがあれば、意見として提出して頂きたい。

③委員会の今後の運営方針

主に今後の検討スケジュールについて、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・運営会議でダムWGの検討スケジュールを決定したわけではない。今後3ヶ月間で河川管理者の説明やダムWGの検討がどうなるかわからないが、今から任期の延長を前提にして議論を進めるのではなく、任期内で当初の予定通りやり遂げる努力をしようという目標の確認を行った。万が一、河川管理者の資料提供が滞り、委員会としての結論が出せないということになった場合は、その時点で対応を決めればよいだろう。まずは、最大限努力していくことが大事だ。
- #### 2 一般傍聴者からの意見聴取
- 一般傍聴者5名より発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。
- ・川上ダムの論点として、活断層についても追加すべきだ。また、5313型降雨を防ぐための越流堤の諸元の検討も論点の1つになる。
 - ・ダムによる誘発地震の検討なくして、ダム建設はあり得ない。留意して頂きたい。
 - ・ダムWGでの論点として、塔の島地区1,500m³/sの切り下げ、天ヶ瀬ダムから宇治橋下流への迂回トンネル。また、1,500m³/s放流の安全性について、検討をお願いしたい。
 - ・参考資料1として、水需要に関して3つの意見を提出した。①流域における利水安全度の低下は恐れるに足らない。②大阪府営水道の水需要予測253万m³/日は過大であり、大阪臨海工業用水道企業団の水利権238万m³/日で充分まかなえる。③大阪府営水道から入手した資料一式と大阪府が設置した水需要部会の資料を添付した。
 - ・ダムWGでは、琵琶湖の水位操作をどう変更したら、どれだけの効果があるのかについて、検討すればよいのではないかと。また、ダムを中止した場合に誰がどれだけのコストを負担しなければならないのか等の情報を利水者に提供すれば、利水の精査確認もスムーズに進むだろう。

3 その他

庶務より今後の委員会開催スケジュールについて説明があった。

以上

第32回委員会の説明資料より抜粋

■資料2-1より

第32回委員会では、資料2-1「事業中のダムを検討事項」を用いて今本ダムWGリーダーより説明が行われました。以下に資料を抜粋して掲載いたします。

(注) 資料2-1は河川管理者からダムWGに提出された資料をもとに、今本ダムWGリーダーによって作成されたものです。

丹生ダム

諸元	ロックフィルダム 堤高145m 堤頂長474m 集水面積93km ² 総貯水容量15,000万m ³ 有効貯水容量14,300万m ³ 堆砂容量700万m ³
目的	①環境：流水の正常な機能の維持（高時川の渇水時の正常流量の確保、異常渇水時の緊急水の確保）→琵琶湖水位の低下抑制 ②治水：高時川および姉川の洪水被害の軽減 ダムにより910m ³ /sを190m ³ /sに低減 ③利水：大阪府21.3万m ³ /日 京都府水道1.73万m ³ /日 阪神水道企業団4.80万m ³ /日 →精査確認中
代替案	高時川・姉川の治水対策案 ①平地河川化案 ②河道改修 ③別川放水路 ④分派放水路と河道改修の組合せ ⑤遊水地と河道改修の組合せ
主な論点	<p><環境></p> <ul style="list-style-type: none"> 環境振替の論理：環境の保全・改善はダム建設の目的になるか 琵琶湖水位の低下抑制：ダムによる低下抑制の効果 瀬田川洗堰の水位操作変更との比較 瀬切れ：瀬切れ解消の意義 農業用水との関連 <p><治水></p> <ul style="list-style-type: none"> 提示された代替案の実現性および優位性 併用案との優位性比較 河川対応(例：堤防補強)+流域対応(例：土地利用の規制・誘導+避難活動など) 現在の河道管理の問題 <p><利水></p> <ul style="list-style-type: none"> 新規利水の精査・確認 水需要管理

大戸川ダム

諸元	重力式コンクリートダム 堤高92.5m 堤頂長335m 集水面積153.5km ² 総貯水容量3,360万m ³ 有効貯水容量2,760万m ³ 堆砂容量600万m ³
目的	①環境：流水の正常な機能の維持（大戸川の渇水時の正常流量の確保）→琵琶湖水位の低下抑制 ②治水：大戸川および下流部の洪水被害軽減 1,250m ³ /sを250m ³ /sに低減 →日吉ダムの利水容量振替(基礎案)→振替中止(WG) ③利水：大阪府3,456万m ³ /日 京都府0,864万m ³ /日 大津市0,100万m ³ /日 →精査確認中 ④発電：現在の2発電所の2,400KWを3,000KWに増大
代替案	○治水 ・日吉ダムの治水機能強化の代替案 堆砂容量の振替 嵩上げ 複合案：大戸川ダムへの利水容量の振替+堆砂容量の振替 ・大戸川・宇治川・淀川に対する大戸川ダムの効果の代替案 未だ提案なし
主な論点	<p>○大戸川ダムの代替案はないのか</p> <p><環境></p> <ul style="list-style-type: none"> 環境振替の論理：環境の保全・改善はダム建設の目的になるか 琵琶湖水位の低下抑制：ダムによる低下抑制の効果 瀬田川洗堰の水位操作変更との比較 <p><治水></p> <ul style="list-style-type: none"> 代替案の有無 併用案との優位性比較 河川対応(例：堤防補強)+流域対応(例：土地利用の規制・誘導+避難活動など) <p><利水></p> <ul style="list-style-type: none"> 新規利水の精査・確認 水需要管理 <p><発電></p> <ul style="list-style-type: none"> 発電は付随的に得られる効果であり、ダム建設の主目的ではない

天ヶ瀬ダム再開発

諸元	アーチダム 堤高73m 堤頂長254m 集水面積42000km ² バイパストンネル 長さ約600m 入口直径約12m 出口直径約25m
目的	①環境：記述なし ②治水：下流部の洪水被害の軽減・琵琶湖沿岸の浸水被害軽減(後期放流) ③利水：京都府営水道5.18万m ³ /日 →精査確認中 ④発電：既設喜撰山発電所の増電

代替案	<p>琵琶湖沿岸の浸水被害を軽減するための施策</p> <p>○琵琶湖の水位を下げる方法</p> <p>a) 洪水を迎える水位を低くする： ①制限水位を下げる</p> <p>b) 琵琶湖に流入する洪水量を少なくする： ②ダム・遊水地 ③内湖復活 ④水田貯留 ⑤森林の整備</p> <p>c) 琵琶湖から流れ出る流量を多くする： ⑥洗堰の全閉・放流制限を止める ⑦日本海放水路案 ⑧木津川放水路(塔の島パイパス)案 ⑨瀬田川～宇治川の流下能力増加 ⑩湖岸堤の新設、内水排水ポンプの新設・増強 ⑪その他の琵琶湖流域で可能な対策：水害に強い地域づくり協議会・浸水想定図</p> <p>○琵琶湖からの流出量の増大</p> <p>(1) 宇治川塔の島地区の改修 (2) 天ヶ瀬ダムの放流能力の増強 (3) 既存施設を利用した天ヶ瀬ダム放流能力増強施策： ①天ヶ瀬ダム本体 ②天ヶ瀬ダム場外仮排水路トンネル ③天ヶ瀬発電所導水路 ④旧志津川発電所導水路 ⑤宇治発電所導水路 ⑥琵琶湖疎水(第1・2) ⑦左岸トンネル式放流設備縮小案 (4) 瀬田川洗堰下流から鹿跳峡谷の間</p>				
主な論点	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="341 940 786 1081"> <p><環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿跳峡谷の景観保全 ・宇治川塔の島地区の景観保全 </td> <td data-bbox="786 940 1255 1081"> <p><利水></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利水の精査・確認 ・水需要管理 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="341 1081 786 1377"> <p><治水></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一連区間の放流・流下能力の増大量および増大方法 瀬田川洗堰の放流能力 鹿跳峡谷の流下能力 天ヶ瀬ダムの放流能力 宇治川塔の島地区の流下能力 <p>・代替案の有効性</p> </td> <td data-bbox="786 1081 1255 1377"> <p><発電></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電は付随的に得られる効果であり、ダム建設の主目的ではない </td> </tr> </table>	<p><環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿跳峡谷の景観保全 ・宇治川塔の島地区の景観保全 	<p><利水></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利水の精査・確認 ・水需要管理 	<p><治水></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一連区間の放流・流下能力の増大量および増大方法 瀬田川洗堰の放流能力 鹿跳峡谷の流下能力 天ヶ瀬ダムの放流能力 宇治川塔の島地区の流下能力 <p>・代替案の有効性</p>	<p><発電></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電は付随的に得られる効果であり、ダム建設の主目的ではない
<p><環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿跳峡谷の景観保全 ・宇治川塔の島地区の景観保全 	<p><利水></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利水の精査・確認 ・水需要管理 				
<p><治水></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一連区間の放流・流下能力の増大量および増大方法 瀬田川洗堰の放流能力 鹿跳峡谷の流下能力 天ヶ瀬ダムの放流能力 宇治川塔の島地区の流下能力 <p>・代替案の有効性</p>	<p><発電></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電は付随的に得られる効果であり、ダム建設の主目的ではない 				

川上ダム

諸元	<p>重力式コンクリートダム 堤高91m 堤頂長375m 集水面積54.7km² 総貯水容量3,300万m³ 有効貯水容量3,120万m³ 堆砂容量180万m³</p>
目的	<p>①環境：流水の正常な機能の維持（前深瀬川・木津川・淀川の渇水時の正常流量の確保）</p> <p>②治水：前深瀬川・木津川・淀川の洪水被害の軽減 1,100m³/sを150m³/sに低減</p> <p>③利水：三重県5.18万m³/日 奈良県2.59万m³/日 西宮市1.82万m³/日 →精査確認中</p> <p>④発電：最大出力1,200KW発電(三重県)</p>

代替案	<p>上野地区浸水対策</p> <p>①遊水地：上野遊水地掘削案・遊水地新設案・遊水地新設掘削案 ②水田活用案(休耕田を含む) ③ため池活用案 ④その他の流域対策案 ⑤放水路案</p>
主な論点	<p><環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・流水の正常な機能の維持は付随的に得られる効果であり、ダム建設の主目的ではない <p><治水></p> <ul style="list-style-type: none"> ・集水面積や他支川との関連から見た川上ダムの上野地区の治水への有効性 ・提示された代替案の実現性・優位性 ・併用案との優位性比較 河川対応(例：堤防補強)＋流域対応(例：土地利用の規制・誘導＋避難活動など) ・堤内地の連続構造物(鉄道・道路など)による氾濫水の制御の可能性 ・岩倉峡の流下能力の把握 ・現在の河道管理の問題点：河床掘削 <p><利水></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利水の精査・確認 ・水需要管理 <p><発電></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電は付随的に得られる効果であり、ダム建設の主目的ではない

余野川ダム

諸元	<p>重力式コンクリートダム 堤高79m 堤頂長414m 集水面積27.8km² 総貯水容量1,760万m³ 有効貯水容量1,700万m³ 堆砂容量60万m³</p>
目的	<p>①環境：流水の正常な機能の維持（余野川の渇水時の正常流量の確保）</p> <p>②治水：余野川および猪名川の洪水被害の軽減 ダムにより280m³/sを10m³/sに低減 →十一庫ダムの利水容量振替による治水機能の増大</p> <p>③利水：阪神水道企業団9万m³/日 箕面市1万m³/日 →精査確認中</p>
代替案	<p>狭窄部上流(多田地区)浸水対策</p> <p>○一庫ダム対応： ①予備放流案 ②堆砂容量活用案 ③利水容量振替案 ④嵩上げ案 ⑤分水路設置案 ⑥放流操作変更案</p> <p>○その他の対応： ⑦既設調整池の機能向上案 ⑧新たな遊水地案 ⑨森林保水機能案 ⑩水田の活用案 ⑪透水性舗装案 ⑬ため池の活用案 ⑭校庭貯留案 ⑮雨水浸透ます設置案</p>

主な論点	<p><環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・流水の正常な機能の維持はダム建設の目的になるか ・利水容量が580万m³であり、正常流量(維持流量+水利流量)の供給は限定的ではないか
	<p><治水></p> <ul style="list-style-type: none"> ・狭窄部上流の多田地区の浸水被害の軽減について 一庫ダム(治水1750万m³・正常360万m³・利水970万m³・堆砂250万m³)の利水容量の一部を他に振替えることにより治水機能を強化しようとしているが振替可能容量は179万m³に過ぎず、治水効果はきわめて限定的ではないか 実現性のある代替案が示されているのではないか ・下流の浸水被害の軽減について 余野川ダムの集水面積は猪名川全体の流域面積383km²の7%に過ぎないため洪水流量の抑制効果はきわめて限定的ではないか 代替案はないのか ・併用案との優位性比較 河川対応(例：堤防補強)+流域対応(例：土地利用の規制・誘導+避難活動など) <p><利水></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利水の見直し ・水需要管理

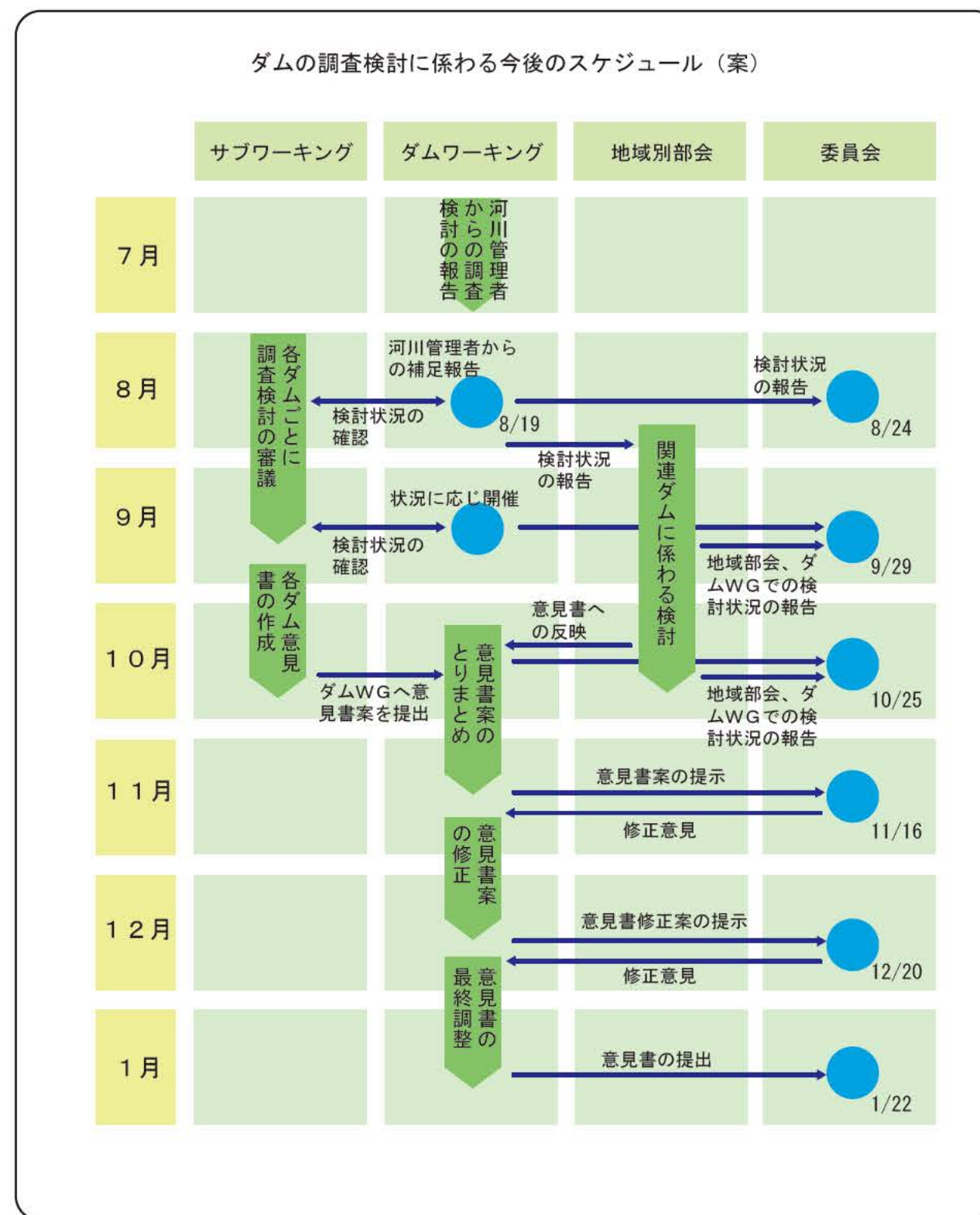
第32回委員会では資料2-1をもとに意見交換が行われました。この詳細につきましては、結果報告、議事録(ホームページにて閲覧可能)をご参照ください。



■資料3、資料1-1より

第32回委員会では、資料3「今後の委員会運営に係わる資料」および資料1-1「前々回委員会(2004.6.22)以降の状況報告」の中の「第36回運営会議結果報告」(資料30~31ページ)を用いて今後の委員会の検討スケジュールについて意見交換が行われました。以下に資料を抜粋して掲載いたします。

(注) このスケジュール(案)は、8月23日現在のものです。審議の進捗により後日変更される予定です。



委員会の今後の進め方について

(ダムワーキング)

- ・検討が遅れていることから、現委員の任期を延ばし、十分検討した上で意見書をまとめてはどうかという意見もあるようだが、期限を延ばしても完全な結論が出る性質のものではないことから、運営会議の意見としては「既定路線で検討を進めるべき」ことが確認された（現委員の任期中に意見書をまとめる）。
- ・可能な範囲でとりまとめ、積み残しが出る場合には課題として明示する。
- ・具体的には、9月、10月でサブWGでの検討を鋭意進め、第35回委員会（11/16予定）にダムWGとしての「素案」を提出する。
- ・これまでは河川管理者から説明を受ける形で進めてきたが、相当量の資料提供がなされていることから、今後はダムWGのメンバーも主体的に手を動かして検討していく。その過程で必要な資料等については河川管理者に提供を求めていく。
- ・ダムの代替案については、真剣に検討すべきものとそうでないものを、委員会として河川管理者に伝えていく必要がある。

(地域部会)

- ・ダムに関する説明・議論は、全体委員会と地域部会で重複する可能性がある。また、地域部会でどれだけ有効な意見が得られるか疑問な面もある。
- ・地域部会（琵琶湖部会と淀川部会）で扱うダムを調整し、サブダムWGと地域部会を合同で実施することも考えられる（今後調整）。
- ・計画内容の進捗点検については、地域部会が中心になって検討し、その結果を全体委員会でまとめる。

(委員会全体)

- ・当初のスケジュール通り進める。委員の任期延長は行わない。
- ・今後の委員会では、ダムワーキングからの中間報告を受けていく。
- ・新たな委員会に向けた準備は9月から粛々と進める予定（←河川管理者）。

委員長よりダムワーキンググループとしての「素案」を10月中にまとめたいとの説明がありました。河川管理者からは調査検討の項目について結果が出たものから、審議に間に合うような形の資料にして速やかに示したいという説明がありました。

配布資料リスト

資料リスト		資料請求 No
議事次第		R32-A
資料1	前々回委員会（2004.6.22）以降の状況報告	R32-B
資料2-1	事業中のダムの検討事項	R32-C
資料2-2	ダムワーキングにおける河川管理者からの提供資料一覧	R32-D
資料2-3	第4回ダムWG(H16.8.19)資料1-7【余野川ダムの効果について】正誤表	R32-E
資料3	今後の委員会運営に係わる資料	R32-F
資料4	今後のスケジュール	R32-G
参考資料1	委員および一般からのご意見	R32-H

注：紙面の都合上、資料内容は省略しています。資料をご覧になりたい方はP.14の「配付資料及び意見書の閲覧・入手方法」をご覧ください。

委員会 委員リスト

2004. 8. 1現在（五十音順、敬称略）

No.	氏名	対象分野	所属等
1	芦田 和男 (委員長)	河川環境一般	京都大学 名誉教授 財団法人 河川環境管理財団 研究顧問
2	有馬 忠雄	植物	大阪府 自然環境保全指導員
3	池淵 周一 (利水部会長)	水資源(水文学、水資源工学)	京都大学防災研究所 教授
4	井上 良夫	地域の特性に詳しい委員(水辺の遊び)	BSCウォータースポーツセンター 校長
5	今本 博健 (治水部会長)	洪水防御(河川工学、水理学)	京都大学 名誉教授
6	江頭 進治	河道変動	立命館大学理工学部 教授
7	大手 桂二	砂防	京都府立大学 名誉教授
8	荻野 芳彦	農業関係(農業水利)	大阪府立大学大学院農学生命科学研究科 教授
9	嘉田 由紀子	地域・まちづくり (環境社会学、文化人類学、住民参加論)	京都精華大学 教授 滋賀県立琵琶湖博物館 研究顧問
10	川上 聡	地域の特性に詳しい委員 (水環境保全ネットワーク・市民活動)	NPO法人 全国水環境交流会 理事 木津川源流研究所 所長
11	川那部 浩哉 (琵琶湖部会長)	生態系	京都大学 名誉教授 滋賀県立琵琶湖博物館 館長
12	川端 善一郎	生態系	京大大学生態学研究センター 教授
13	紀平 肇	動物	中間法人 水生生物保全研究会 理事
14	倉田 亨	農林漁業	近畿大学 名誉教授 京都府内水面漁場管理委員会 会長
15	小竹 武	地域の特性に詳しい委員	大阪府立十三中学校 校医 小竹医院 院長 淀川ネイチャークラブ 会長
16	小林 圭介	植物(植物社会学)	滋賀県立大学 名誉教授 永源寺町教育委員会 教育長
17	宗宮 功 (環境・利用部会長)	水質(水質工学)	京都大学名誉教授 龍谷大学教授
18	田中 真澄	地域の特性に詳しい委員 (自然哲学)	岩屋山志明院 住職 鴨川の自然をはぐくむ会 代表 市民投票の会 共同代表
19	田中 哲夫	漁業関係(魚類生態学)	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 助教授
20	谷田 一三	動物 (河川生態学、昆虫分類系統学)	大阪府立大学総合科学部 教授
21	田村 悦一	法律(行政法)	京都橘女子大学文化政策学部 教授 立命館大学 名誉教授
22	塚本 明正	地域の特性に詳しい委員 (幅広い分野の人のネットとコーディネイト)	子供と川とまちのフォーラム 副代表
23	寺川 庄蔵	地域の特性に詳しい委員 (自然・環境問題全般)	びわ湖自然環境ネットワーク 代表

No.	氏名	対象分野	所属等
24	寺田 武彦 (淀川部会長)	法律	弁護士 日弁連公害対策・環境保全委員会 元委員長
25	寺西 俊一	経済(環境経済学、環境政策論)	一橋大学大学院経済学研究科 教授
26	中村 正久	水環境(環境政策、環境システム工学)	滋賀県琵琶湖研究所 所長
27	西野 麻知子	動物(陸水動物学)	滋賀県琵琶湖研究所 総括研究員
28	仁連 孝昭	経済	滋賀県立大学環境科学部 教授
29	畑 武志	農業関係	神戸大学農学部 教授
30	服部 保	植物(植物生態学)	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授
31	原田 泰志	漁業関係	三重大学生物資源学部 教授
32	尾藤 正二郎	マスコミ	神戸親和女子大学文学部 特任教授
33	畚野 剛	地域の特性に詳しい委員	川西自然教室 代表
34	藤井 絢子	地域の特性に詳しい委員	滋賀県環境生活協同組合 理事長
35	細川 ゆう子	地域の特性に詳しい委員 (住民運動)	猪名川の自然と文化を守る会
36	本多 孝	地域の特性に詳しい委員 (環境教育、人と自然のかかわり)	みのお山自然の会 会長
37	榎村 久子	地域・まちづくり (地域計画・景観文化論)	京都女子大学現代社会学部 教授 (社)なら女性フォーラム 副理事長
38	榎屋 正	地域の特性に詳しい委員	地球環境関西フォーラム 事務総長
39	松岡 正富	地域の特性に詳しい委員	滋賀県漁業青年部 理事 朝日漁業協同組合 監事
40	松本 馨	地域の特性に詳しい委員 (地域自然保護活動、淡水生物調査、環境 (自然保護)教育)	池田・人と自然の会 代表
41	水山 高久	治山・砂防	京都大学大学院農学研究科 教授
42	三田村 緒佐武 (住民参加部会長)	環境教育 (水環境教育、生物地球化学)	滋賀県立大学環境科学部 教授
43	村上 悟	地域の特性に詳しい委員 (鳥類生態、ラムサール条約)	琵琶湖ラムサール研究会 代表
44	森下 郁子	動物	大阪産業大学 人間環境学部 教授
45	矢野 洋	水質	神戸市水道局水技術部 調査役
46	山村 恒年	法律(行政法・環境法)	弁護士・元神戸大学教授
47	山本 範子	地域の特性に詳しい委員	流域住民
48	吉田 正人	自然保護(自然保護、生態学)	財団法人 日本自然保護協会 理事 江戸川大学 助教授
49	米山 俊直 (猪名川部会長)	水文化	京都大学 名誉教授 国際京都学協会 理事長
50	鷺谷 いづみ	植物(植物生態学、保全生態学)	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
51	和田 英太郎	水質(同位体生態学)	総合地球環境学研究所 教授
52	渡辺 賢二	水環境	上桂川漁業協同組合 元事務局長

注：対象分野欄の()は委員の専門を示しています。

これまで開催された会議等について

第32回委員会（平成16年8月24日）までに、以下の会議が開催されています。

委員会	琵琶湖部会	淀川部会	猪名川部会	
第1回 ～第6回 平成13年開催	第1回 ～第8回 平成13年開催	第1回 ～第10回 平成13年開催	第1回 ～第6回 平成13年開催	
第7回 ～第15回 平成14年開催	第9回 ～第20回 平成14年開催	第11回 ～第20回 平成14年開催	第7回 ～第17回 平成14年開催	
第16回 H15/1/17（金）	第21回 H15/1/29（水）	第21回 H15/7/5（土）	第18回 H15/7/1（火）	
第17回 H15/1/24（金）	第22回 H15/5/19（月）	第22回 H15/8/26（火）	第19回 H15/9/2（火）	
第18回 H15/2/24（月）	第23回 H15/6/10（火）	第23回 H15/10/13（月）	第20回 H15/10/9（木）	
第19回 H15/3/27（木）	第24回 H15/7/18（金）			
第20回 H15/4/21（月）	第25回 H15/8/25（月）			
第21回 H15/5/16（金）	第26回 H15/9/24（水）			
第22回 H15/6/20（金）	第27回 H15/10/23（木）			
第23回 H15/7/12（土）	環境・利用部会		治水部会	
第24回 H15/9/5（金）	第1回 H15/3/8（土）	第1回 H15/3/8（土）	利水部会	
第25回 H15/9/30（火）	第2回 H15/3/27（木）	第2回 H15/3/27（木）	第1回 H15/3/8（土）	
第26回 H15/10/29（水）	第3回 H15/4/10（木）	第3回 H15/4/10（木）	第2回 H15/3/27（木）	
第27回 H15/12/9（火）	第4回 H15/4/17（木）	第4回 H15/4/14（月）	第3回 H15/4/14（月）	
第28回 H16/2/26（木）	第5回 H15/5/29（木）	第5回 H15/8/25（月）	第4回 H15/9/2（火）	
第29回 H16/5/8（土）	第6回 H15/8/25（月）	第6回 H15/10/24（金）	第5回 H15/10/24（金）	
第30回 H16/6/22（火）	第7回 H15/10/15（水）			
第31回 H16/7/29（木）	住民参加部会		3ダムサブWG	
	第1回 H15/2/24（月）	第1回 H16/7/11（日）	第1回 H16/8/7（土）	
	第2回 H15/3/27（木）			
	第3回 H15/4/11（金）	第2回 H16/7/18（日）	川上ダムサブWG	
	第4回 H15/4/18（金）	第3回 H16/7/25（日）	第1回 H16/8/3（火）	
	第5回 H15/5/27（火）			
	第6回 H15/8/28（木）	第4回 H16/8/19（木）	余野川サブWG	
	第7回 H15/10/23（木）		第1回 H16/8/11（水）	
その他	設立会	H13/2/1（木）	拡大委員会	H14/11/13（水）
	発足会	H13/2/1（木）	提言説明会	H15/1/18（土）
	第1回 合同懇談会	H13/2/1（木）	しっかりしてや！！ 流域委員会	H16/2/28（土）
	第1回 合同勉強会	H14/4/11（木）	ファシリテーターとの 検討会	H16/5/15（土）
	シンポジウム	H14/6/23（日）		

配付資料及び意見書の閲覧・入手方法

以下の方法で資料及び意見書を閲覧、または入手することができます。ただし、以下の点にご注意下さい。

- ・当日会場で部数の関係上、一般傍聴者に配付されなかった資料は、閲覧のみ可能とさせていただきます。
- ・当日会場で一般傍聴者に配付された資料で原本がカラーの資料は、白黒での提供となります。カラーの資料を希望される場合にはコピー代を実費でいただきます。なお、カラー資料についてはホームページ等での閲覧は可能です。

ホームページによる閲覧

配付資料及び意見書は、ホームページで公開しております。

郵送

郵送による配付資料の送付を希望される方には、送料実費にて承っております。（希望部数が多い場合、またカラーの資料を希望される場合はコピー代も実費でいただきますので、予めご了承ください。）ご希望の方は、FAXまたは郵送、E-mailで庶務までお申し込みください。

閲覧

資料の閲覧を希望される方は、庶務までご連絡ください。

「意見書」の入手

意見書の送付を希望される方は、氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号と「意見書希望」を明記のうえ、下記までご連絡ください。
※頂いた個人情報については、上記資料及び意見書の送付のみに使用させていただきます。

ご意見受付

淀川水系流域委員会ではみなさまのご意見を募集しています。
ホームページ、E-mailまたはFAXにてお寄せ下さい。

※氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号をご記入のうえ、上記までお寄せ下さい。
※寄せられたご意見は公表させていただく場合がございます。公表に支障がある場合にはその旨も併せてご記入いただきますよう、お願いいたします。
※ご意見を公表する場合には、団体・会社名（または居住地）とお名前も公表いたしますので予めご了承下さい。
※ご記入いただいた個人情報については、上記の意見の公表のみに使用させていただきます。

■ホームページ <http://www.yodoriver.org>

■E-mail yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

■TEL 06-6222-5870

■FAX 06-6222-5871

淀川水系流域委員会 庶務

みずほ情報総研（株） 大阪支社内

※10月1日より「株式会社富士総合研究所」から社名変更



淀川水系流域委員会 委員会ニュース No.32

2004年10月発行

【編集・発行】淀川水系流域委員会

【連絡先】淀川水系流域委員会 庶務

みずほ情報総研 株式会社 大阪支社

研究員：吉岡、篠田、堤、熊谷、松本

事務担当：山根

※10月1日より「株式会社富士総合研究所」から社名変更

〒542-0042 大阪市中央区今橋4-2-1（大阪富士ビル8階）

TEL: (06) 6222-5870 FAX: (06) 6222-5871

E-mail: yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

●流域委員会ホームページアドレス

<http://www.yodoriver.org>

◆ニュースレターは以下の機関でも配布しています。

国土交通省 近畿地方整備局／淀川河川事務所／琵琶湖河川事務所／大戸川ダム工事事務所／淀川ダム統合管理事務所／猪名川河川事務所／猪名川総合開発工事事務所／木津川上流河川事務所／水資源機構 関西支社／滋賀県 土木交通部河港課／京都府 土木建築部河川課／大阪府 土木部河川室／兵庫県 土木部河川課／奈良県 土木部河川課／三重県 伊賀県民局 等

*ニュースレターは最新号、バックナンバーともに、ホームページでもご覧頂けます。